

## 【最優秀賞】

### あなたの「～してみたい」を見つける『ホットニュース』のお届け ～要介護者の閉じこもり防止・外出支援の取り組み～

佐倉〈ゆうゆうの里〉 生活サービス課  
杉田貴嶺 白石幸子 中橋典子

#### 【目的】

あるご入居者のご葬儀が終了した後、職員が後片付けをしていると、要介護者のA様があわてた様子で車椅子で来られ「間に合わなかった・・・残念だった・・・」とつぶやかれた。職員が話を伺うと、お亡くなりになられたご入居者は、20年前にA様と同じ入居者委員をされ、親しくされていた方だった。A様は「葬儀の事を今掲示板で見てあわてて来た」と残念そうに話された。

佐倉施設ではレストラン内とコミュニティセンター前に掲示板を設け情報掲示している。A様のような要介護者には個別に情報提供をしていなかったが、これを機に、要介護者への情報提供と閉じこもり防止を目的に、新たな取り組みを平成20年12月より開始した。

#### 【内容】

掲示されているポスター内容は訃報だけでなく火災訓練や断水など施設のメンテナンスや、診療所情報など、生活に密着した大切な情報が掲示されている。職員で話し合った結果、ポスター内容を知らないことに関して不安に思っているご入居者が沢山いることがわかった。まずは、里の掲示板で掲示しているポスターを閲覧できないご入居者（主に要介護者）にどのような方法で情報提供できるか検討した。

第一歩として、掲示板に貼られる本日の最新ポスターを『ホットニュース』として、要介護者宅へ訪問する際にお見せし、情報提供をすることで、会話も弾むのではないかと考えた。また、外に出る機会や意欲の無いご入居者を興味のある行事にお誘いし、楽しい時間を過ごしてもらうことがご入居者の生きがいや生活の質の向上になるのではないかと考えた。そのことで、ご入居者の閉じこもり防止や外出支援となるのではないかと考え、実行する事とした。

具体策として、全体朝礼の際に、ポスターを朝礼担当者が受け取り、各巡回担当者にコピーして届ける。その情報をファイルに綴り、ご入居者宅へ訪問した際、ポスターをもとに説明を加えながらコミュニケーションを図るようにした。

最初はスムーズにいったが、回を重ねるごとに「どのご入居者にどの情報を提供したか判らない」という声が職員からあがった。改善策として、チェック表を用意し、どなたに何をお見せしたか、わかるよう一覧表を用意した。また、10枚綴りのファイルをリング式のものに変更することで、枚数の増減や情報の整理が手軽にでき、最新情報は一番トップに掲載できるようになった。

#### 【結果・考察】

ご入居者から「行ってみようかな?」「食べてみようかな?」「見てみようかな?」などの前向きな発言が聞かれ、「行事に参加出来なくてもポスターを見ることで、参加した気分になり、嬉しい」という言葉を頂いた。職員からは「届けた情報によって、ご入居者の疎外感・孤独感が薄らぎ、生活に変化が生まれているように感じた」という意見もあった。

和菓子販売を楽しみにしているB様は、「買物に出かける事が少ないので、買うのが楽しみ。部屋でポツンとしていると季節が分からない時があるが、和菓子の写真を見たり、食べたりする事で季節を感じる事ができる」と嬉しい言葉を頂いた。

訃報から端を発した取り組みであったが、ご入居者の残念であったという気持ちや職員のご入居者を思う気持ちから大きな改善が出来たと感じた。

この取り組みを通じて、情報を知らせることによりご入居者の不安を解消する事ができた。また情報は、私達職員がご入居者一人一人に「参加して欲しい」という思いをこめて伝えることにより閉じこもりを防止し、社会参加への第一歩に繋がる事が実証できた。

## 【優秀賞】

はじめまして…こんにちは！！

～聴覚障害のある方のソフトランディング～

湯河原〈ゆうゆうの里〉 生活サービス課

○大友春菜 深沢小百合 菊地祥世 石田正明

### 【目的】

平成 22 年 5 月、聴覚障害 2 級(先天性)の A 様が湯河原施設にご入居することが決定しました。湯河原施設では聴覚障害で単身のご入居者は初めての事です。音声言語を習得する前に失聴し、聴力レベルが 100dB 以上つまり音は聞こえない状態です。手話や読唇術で意思疎通を行い A 様は声を出す事ができます。行動を制限されずに自由に生活が出来る事がゆうゆうの里のご入居のきっかけでした。入居時 A 様から、緊急時の対応方法への不安、里の入居者との交流を大切にしたいという思いをお聞きました。聴覚障害の方は音によって周囲の状況を判断でないことや、一見して障害者だと気付かれないことがあります。そこで私たち職員は A 様と職員・入居者のコミュニケーションが上手く取れれば障害があっても A 様が不安なく楽しみながら生活を送っていただけるのではないかと考え取り組みを始めました。

### 【内容】

- ◇居室への訪問に A 様が気付けるように玄関チャイムを押すと光でお知らせするセンサーを設置などの環境整備を行った。
- ◇A 様対職員のコミュニケーション方法は、聴覚障害についての基礎知識を学ぶと同時に、A 様と近づきたいという思いから簡単な手話を練習し実際に挨拶を行いました。職員に親しみをもってもらうため職員の顔写真を A 様へ渡しました。また、外商の訪問など里での定期的な放送は予定表を渡してお知らせしています。猿の出現などの緊急放送の場合は内容を紙に書き渡し、火報や地震などの緊急時は職員がお部屋へ伺うようにしました。
- ◇A 様対入居者のコミュニケーションでは A 様より「自分のことを入居者の方に知ってもらいたい」という希望がありました。そこで運営連絡会議や入居者懇談会が開かれた際に A 様の説明、質疑応答、A 様の自己紹介を行いました。また施設内では「耳が不自由ですよろしくネ」と書かれた名札をつけてもらいました。

### 【結果・考察】

平成 22 年 5 月にご契約されてから非常住のため月に 1 週間ほどしか見えませんが、他の入居者と里で待ち合わせをして一緒に過ごされるなど入居者の方と楽しく交流されています。またお一人で町内の散策をするなど、自分の生活を楽しまれています。職員とのやりとりでは筆談と読唇術で行っていますが、手話の取り組みの結果「職員が手話で挨拶をしてくれて嬉しい」という声を頂きました。職員は「手話で挨拶をして返事が返ってくることは嬉しい、これからも頑張って手話をやっていく」と意欲が湧いています。

また、ご入居者とは手話やジェスチャーでコミュニケーションをとっており、時には A 様が手話を教えるなど交流が広がっています。入居者からは「初めは耳が聞こえないと知らずに戸惑ったけれど、しっかり向き合えば分かり合える。今は障害者としてあまり意識をしていない」という言葉を頂きました。

今回 A 様が入居者と多くの関わりを持てたことは、①職員が入居者の思いをきちんと受け止め、他の入居者にその思いをしっかりと伝えられた②A 様が入居者と前向きに関わっていききたいという気持ちが入居者へ伝わった結果だと思います。

新しく入居された方は里へ大きな期待をお持ちになって入居されます。私たちはその期待が実現出来るように今後もご入居者の声を傾聴しながら仕事に励んでいきます。

## 【優秀賞】

### エプロン革命

～現場からの『こうしてほしい』を生かして～

佐倉〈ゆうゆうの里〉 ケアサービス課  
池城登志枝 梅山千加 古川幸枝  
浮ヶ谷美穂 本田稔幸

#### 【目的】

私たちは現場で必要なエプロンが現状に合わず、様々な面で使いにくいことが気になっていた。入居者から「エプロンの色が褪せている」と言われたり、職員内では「使い勝手が悪い」との意見もあった。そこで、契約職員が中心となりエプロンについて考える機会をもった。そして入居者の方に目で楽しんでいただき、私たちにとっても働く意欲を高めるようなエプロンにしたいと考えた。

#### 【内容】

平成21年8月、契約職員懇談会の場で提案し、契約職員を中心としたエプロン委員会を立ち上げた。

現場からの意見を集めると「色が暗い、自分に合うサイズがない、色が褪せたり汚れが目立つものがある、動きやすいものにしたい。また、名札が入居者の顔にあたり危険」といったよりたくさんの意見・要望がでてきた。それに基づき既製品エプロンのサンプルを取り寄せて、意見・感想を集めていった。しかし、既製品では希望に叶うものがなかったため、私たちの想いを形にしたエプロンを自分達で創ることにした。

製品については、生地・デザイン、特に名札を危険なく常に見てもらえる方法、様々な職員に対応できるサイズ調整の方法、動きやすく使いやすいもの、にこだわって作った。

#### 【結果・考察】

実際に出来上がる過程のひとつひとつで様々な職員の意見を集約して出来たエプロンは、色も四種類に増やした。また、サイズ調整を容易に出来るよう背部のボタン数を増やし、スリットも動きやすい位置に入れた。名札は専用のポケットを作ることで、入居者に当たらないよう、名札を入れたまま名前を見ることができるよう工夫した。

その結果、入居者の方から「あなたはその色が似合うわ」といった会話が増えたり、「今は名札が見やすくいいわ」といった安心感を持っていただけるようになった。また、メーカーから展示会出品の依頼があるなど第三者からも好評を得られるものになった。

職員も、使いやすく自分の好みの色のエプロンを選べる楽しみができ、明るい気持ちで仕事を始められるようになった。

今回の取り組みは、職員全体の向上心を生むきっかけになった。

今後の課題として、エプロンの管理体制をどのようにしていくか、また継続して職員の意見を反映させるシステムを考えて行きたい。